

## 指定管理者評価シート

### 一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市東長町児童館	
2 指定管理者	特定非営利活動法人ワーカーズコープ	
3 指定期間	令和4年4月1日～令和9年3月31日	
4 施設の利用状況	《利用者数》 ・令和4年度 29,098人(前年度比 107.3%) ・令和3年度 27,123人 ・令和2年度 24,189人	
	《事業》 ・児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業	
5 収支の状況	《費用》 ( )は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 59,898千円 (54,392千円) ・ その他市が負担した費用 0千円 (0千円)	
	《収入》 ・ 使用料収入 0千円 (0千円) ・ その他収入 0千円 (0千円)	
6 利用者の声	《実施状況》 ・利用者アンケート、児童館運営委員会、児童クラブ保護者会を実施。	

### 二 管理運営に係る評価 (モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	30/30
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	24/24
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子ども達が安心して過ごせる生活の場を整え、学校を中心に各関係機関と連携して育成支援に取り組んでいる。また、乳幼児親子向けの行事開催や交流の場の提供により子育て家庭を支援すると共に、小中高生に対して、発達段階に応じた遊びの指導や活動支援を行っている。地域との交流事業においては、日頃の情報交換や様々な工夫を凝らした事業で地域連携の保持に努めている。 なお、職員における虐待や不適切な対応を防止する取り組みについてのマニュアル「職員における虐待等の不適切な行為に対する対応について」を作成し、職員会議やOJTを開催して職員間で周知共有、子どもの人権に十分に配慮するとともに、子ども一人ひとりの人格を尊重して支援が行われている。	19/18

### 三 評価総括

《指定管理者（特定非営利活動法人ワーカーズコープ）による自己評価》
<p>「つながれ あったか えがおのわ」をキャッチフレーズに、今できること、今だからできることを見出し子どもたちの意見を取り入れて取り組んだ一年でした。</p> <p><b>【児童健全育成事業】</b>            中高生は「みんなのカフェ」を居場所として来館し、平日、長期休業の来館者も増えたことをうけて、中高生からの要望をすくい上げ、「たこ焼きパーティー」を行いました。放課後児童クラブ児との校庭遊び、遊戯室遊びでは鬼ごっこやボール遊びに積極的に参加して異年齢交流ができました。おやじの会の協力を得て3年ぶりに「もちつき体験会」を自由来館の子ども達を対象に開催することができました。</p> <p><b>【子育て家庭支援事業】</b>            ウェルカムパーティを開催するにあたり来館者と共に子育て支援クラブへの参加を呼びかけ、子育て支援クラブへの入会を支援しました。3年ぶりの「制服おさがり会」はニーズに合わせた開催日時で行うことができました。</p> <p><b>【地域交流推進事業】</b>            「ございん茶屋」を定期的に行うことで地域の高齢者が乳幼児親子と一緒に参加できることを喜ぶ姿が見られるなど、世代間交流につながりました。近隣のグループホーム、こども園とは児童クラブ児が製作した作品を届けたり、いただいたりと交流が継続する工夫に努めました。</p> <p><b>【放課後健全育成事業】</b>            3年生以上の子どもたちを対象とした「あふたぬーん」は継続して児童クラブを楽しめるよう、陶芸体験やスイカ割り等、普段できない体験活動の機会を提供しました。団体企画のSDGsフェスタでは、体験活動等を通して子どもたちにSDGsについて学ぶ機会を提供しました。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>児童健全育成事業においては、「小学生フラワーアレンジメント」「クリスマスリースをつくろう」を実施した。普段触れることが少ない生花に触れながら作品を創り出す体験型の活動は好奇心を刺激する等、豊かな感性を育む機会となっている。中高生を対象に開催した「みんなのカフェ」をきっかけに、自由来館での利用も増えてきている。中高生から出た意見を取り入れた行事を開催したり、来館時にはゆっくり話を聞いたりおしゃべりの時間を大切にしながら、中高生にとって、やりたいことができる場・いろいろな大人と関わりが持てる場としての環境も整えており、居場所として定着してきている様子が窺える。</p> <p>子育て家庭支援事業においては、登録制の幼児クラブ「マーチっこクラブ」を再開し、工作や運動遊び・季節のイベント等、乳幼児親子が多様な遊びを楽しみながら継続的に出会える場を提供した。「きりりんタイム」ではカラーボトルやヘアピン作りなど保護者がリフレッシュできるような内容で実施し、好評を得ている。転出入が多い地域でもあるため春に「ウェルカムパーティ」を開催して、地域の中で親子が歩いて行けるお店を地図や写真で紹介する等、乳幼児親子が交流を持ちながら、安心して子育てができる環境作りに努めている。</p> <p>地域交流推進事業においては、制限された中でも交流が図れるように工夫し、近隣の施設へ季節の制作物をプレゼントしたりメッセージカードを通して交流を継続した。「ございん茶屋」では、地域の方と乳幼児親子との茶話会を開催して、世代間交流に努めている。</p> <p>放課後児童健全育成事業においては、年間を通して戸外遊びを積極的に取り入れ、学年を超えて遊べる場や楽しめる遊びを提供している。活動の前には高学年が準備体操を担当したり、低学年の跳ぶ大縄跳びを回したり、積極的に異年齢児と関わる姿が見られており、遊びを通して心身の健康と自主性や社会性、自己有用感を育んでいる。</p>	S

### 四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課(施設所管課):こども若者局こども若者支援部児童クラブ事業推進課